平成 30 年度 第 1 回東濃看護専門学校運営協議会 議事録

日 時：平成 30 年 7 月 2 日（月） 14：00～15：10

場 所：東濃看護専門学校 2 F 会議室

出席者：（運営協議会委員）

佐藤多治見市副市長 勝瑞浪市副市長 加藤土岐市副市長

元吉土岐市立総合病院院長代行 小山東濃保健所所長

柳生多治見市市民健康部長 加藤瑞浪市民生部長 酒井土岐市市民部長

（東濃看護専門学校）

伊藤学校長 加藤教務主任 成瀬事務長 鈴木係長

（東濃西部広域行政事務組合）

水野事務局長 加知主査

1. 学校長あいさつ

（伊藤学校長） 皆さんこんにちは。今日は暑い中、またお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本日は議事といたしまして「平成 29 年度東濃看護専門学校事業特別会計決算」と「平成 31 年度東濃看護専門学校学生募集要項」についてでございますので、よろしく願いいたします。

（成瀬事務長） （委員の交代について説明）
（委員 8 名の出席により、会議成立の報告）

2. 議事

（1）協議事項 1）平成 29 年度東濃看護専門学校事業特別会計決算について

（加藤会長） それでは協議事項 1）、「平成 29 年度東濃看護専門学校事業特別会計決算について」事務局の説明をお願いします。

（成瀬事務長） （資料 1 について説明）

（加藤会長） ただ今説明のありました「平成 29 年度東濃看護専門学校事業特別会計決算について」質疑はございませんか。

（佐藤副会長） 歳入歳出差引残額 3,633,851 円から 1,000,000 円を除いた 2,633,851 円を基金に繰り入れていますが、1,000,000 円は平成 30 年度当初予算の歳入に繰越金として組み入れているのですか。

(成瀬事務長) 毎年 1,000,000 円を繰越金として歳入に入れていきます。

(佐藤副会長) 1,000,000 円を歳入の当初予算として組み、残りを基金に積んでいるということですか。

(成瀬事務長) そうです。

(加藤会長) 財政調整基金は使用することはありませんか。

(成瀬事務長) 平成 28 年度は、備品と施設修繕に財政調整基金を充当しました。
平成 29 年度は、備品購入に財政調整基金を充当していないので、3 市の負担金が若干増額しました。

(佐藤副会長) 以前は細かい備品購入に財政調整基金を充てていたが、建物の大規模修繕に充てていった方がよいということで、基金は使用しないようにしています。

(加藤会長) 質疑も出尽くしたようでございますので、平成 29 年度東濃看護専門学校事業特別会計決算については、承認ということよろしいでしょうか。

(承認)

2) 平成 31 年度東濃看護専門学校学生募集要項について

(加藤会長) 続きまして協議事項 2)、「平成 31 年度東濃看護専門学校学生募集要項について」事務局の説明をお願いします。

(成瀬事務長) (資料 2 について説明)

(加藤会長) ただ今の説明がありました「平成 31 年度東濃看護専門学校学生募集要項」について質疑はありませんか。

(勝委員) 一般入学試験について、「資格審査申出期限」が一次募集と二次募集で同じ日になっていますが、二次試験は実施するかどうか確定していないのに、資格審査該当者は二次募集に向けて資格審査を提出しておかないといけないということですか。

- (成瀬事務長) 2月14日に二次募集をするかどうかの最終決定日となりますが、2月27日の試験日までにはほとんど時間がありません。二次試験の実施を決定してから該当者が資格審査を申し込まれても、資格の確認をすることができません。
- (勝委員) 資格審査を要する受験生は、実質的に二次試験は受験できないことになりませんか。
- (成瀬事務長) 色々なケースがありますが、受験者が他の看護学校を受験し試験に落ちた場合、当校の二次試験があれば受験しようという方もみえると思われれます。
- (勝委員) 資格審査まで受ける受験生が、二次募集まで受けるとは思われないが、一次試験が終わってからだと、資格審査が必要な方が実質的に二次試験を受けられないので、もう少し二次募集の資格審査の時期がなんとかならないかと思っただけです。
- (勝委員) 推薦入学試験の定員が20名以内となっていますが、何か基準はありますか。
- (成瀬事務長) 国の基準で推薦入試の定員が半分を超えてはいけなくなっています。定員40名なので募集人員20名以下となっていますが、なかなか20名まで達することはありません。
- (勝委員) 20名までは遠い数字だが、なるべくたくさん推薦入試で入学して欲しいものです。
- (成瀬事務長) 早い段階で推薦入学希望者を多く確保できるとありがたいです。
- (加藤会長) 実際に二次募集で資格審査を受ける受験生はいますか。
- (成瀬事務長) 資格審査自体の例がほとんどありません。3年前(平成27年度募集)に中国の学校を卒業された方が受験したことがあります。
- (勝委員) 二次募集に関しても、一応、資格審査申出の期限を設けておくということで理解しておきます。
- (加藤会長) その他に質問はありませんか。資料2-3「入学試験の状況」について質問はありませんか。

(佐藤副会長) 可茂准看護学校出身の入学者が例年より多いが、可茂准看護学校に何かアプローチをしたのですか。

(成瀬事務長) 特段のアプローチはしていませんが、学生募集要項を持参し、学生の状況を伺いながらお願いして参りました。また、学生にオープンキャンパスに来ていただき、当校を見て興味を持っていただきました。

以前も受験生は多かったが、合格しても当校への入学を辞退される割合が多く、入学者数に結び付かなかったということです。平成 30 年度は辞退せずそのまま入学される学生が多かったが、決めてが何かは不明です。

(加藤教務主任) この 2 年間で、オープンキャンパスに教員もそろって見学されたのは可茂准看護学校だけです。また今年も見学に来て頂けるとの話を伺っており、教員がしっかり当校を見てくださっています。

加茂准看護学生が併願で当校を受験し両方合格した場合、当校を選ぶよう強く押したわけではないと可茂准看護の教員はおっしゃっておりました。学生自身が当校を選び入学した数が多かったということです。

(瑞浪副市長) 可茂准看護学校からの推薦入学者が少ないようですが。

(成瀬事務長) 加茂准看護学校は可児加茂医師会なので、そちらに勤めるよう准看護学校を運営しているので、こちらの多治見・土岐医師会に推薦するというのは難しいと思われます。

(佐藤副会長) 合格者に比べ入学者が少ない年もあり、辞退者が多いと思われます。

(加藤会長) 辞退された受験生は他の学校へ行くのですか。

(成瀬事務長) おそらく併願で、当校が第 1 希望ではなかったということだと思われます。

(勝委員) 繰り上げ合格はしていますか。

(成瀬事務長) 繰り上げ合格については、以前から行っています。必ず辞退される合格者がいますので、1 人辞退があれば、1 名補欠合格者に連絡し、3 名辞退があれば 3 名の補欠合格者に連絡しています。

(加藤会長) 質疑も出尽くしたようでございますので、「平成 31 年度東濃看護専門学校学生募集要項」は、承認ということでよろしいでしょうか。

(承認)

(2) 報告事項

平成 30 年度学生の状況及び平成 29 年度卒業生の状況について

(加藤会長) 続きまして、報告事項 「平成 30 年度学生の状況及び平成 29 年度卒業生の状況について」事務局の説明をお願いします。

(成瀬事務長) (資料 3 について説明)

(加藤会長) ただ今の説明がありました「平成 30 年度学生の状況及び平成 29 年度卒業生の状況について」質疑はありますか。

(勝委員) 受験者数が減ってきています。准看護学校生がどれぐらいの人数がいるのか状況を調べてみてはどうでしょうか。准看護学生の数で当校の入学者数は左右されると思われます。

(成瀬事務長) 各准看護学校の学生数を調べております。定員一杯ではありませんが、次の状況です。

多治見市医師会准看護学校は定員 32 名のところ、1 年生が 31 名、2 年生が 29 名。土岐医師会准看護学校は定員 32 名のところ、1 年生が 30 名、2 年生が 30 名。可茂准看護学校は定員 30 名のところ、1 年生が 30 名、2 年生が 27 名。全体で 86 名の 2 年生がいます。

以前は半分ぐらいが進学を希望と言われていましたが、今は少し進学希望者が減ってきていると聞いています。

(勝委員) 准看護師が上のキャリアを目指して看護専門学校に入学してくれると良いのですが。

(加藤会長) 上のキャリアを目指さず、准看護師で十分という考えの方もみえるのではありませんか。

(成瀬事務長) 看護師が最終目標であれば、例えば、多治見看護専門学校なら高校卒業後、3 年間で看護師になれます。准看護学校を卒業し、当校に入学される場合、高校を卒業してから看護師になるまで 5 年かかります。

定時制の学校に通いながら看護師を目指すという特段の理由がなければ、別の道を選ぶこともあります。大学なら、高校を卒業後 4 年で看護師になれますので、看護師になるための選択肢が増えてきていることが、受験生の減少の一つの要因だと思われます。

(勝委員) 高校にPRをして、准看護学校に入るよう案内をしたり、働きかけてはどうですか。

(成瀬事務長) 先般、土岐医師会准看護学校で開催されました、土岐准看護学校と中部国際自動車大学校との合同による高校の進路担当者への説明会に出席しました。参加される高校の数が減ってきて参加校は6校でした。中京高校には10名ほど准看護師を目指したいという学生がいるようですが、先生としては中京学院への全員進学を希望しているようです。実際は、なかなかそういうわけにはいかないようで、准看護学校へ入学する生徒もいるだろうと聞いています。

(加藤会長) この資料のデータを見る限り、受験者数が減ってきています。とりまく環境が厳しくなっているように感じられます。

(小山委員) 准看護学校の定員がほぼ埋まっていることに驚きました。以前に比べ、それほど高い学力を要しなくても正看護師になれる時代になっていると思われまます。

准看護学校へは、准看護師になって働くという明確な意思を持って通われているような気がします。そうなる看護士になるために看護専門学校へ進学しようとする准看護師も減ってくるのではないのでしょうか。

愛知県は准看護学校が減ってきているので、岐阜県に学生が流れてきているのではと思われまます。准看護師としてしばらく働き、社会や就労条件のことを知り、もっとスキルアップしたいと考え看護士を目指す方もみえると思いますが、准看護師として働いていこうという意思が固いと、なかなか入学者の増加には繋がりませぬ。このような厳しい状況ですが、引き続き入学生を増やすPRをお願いします。

(佐藤副会長) 圏域内への就業者の割合は増えてきていますが、定員40人で平成29年度卒業生は29人と少ないです。平成22年度も卒業生が20人と少ないです。平成27年度に入学したときは38名で、平成29年度に卒業したときは29名となっています。

(成瀬事務長) 平成29年度卒業生29名の内、2名は留年した学生で、平成26年度に入学した学生です。同じ年に入学しても、卒業時は1年ずれることもあります。

平成29年度は退学者が5名でしたが、10名に近い退学者が出る年もあります。退学の理由は、病気などで就職先を退職し学業が続けられない、学力不足で勉強についていけない、国家試験までに自分の学力では難しいと

断念をしたり、別の道に進みたいなど様々です。

学生の学習や進路については先生方が親身になって相談に乗っていますが、学力がどうしても追いつかないことがあり、修業年数が3年、留年も1年までで、その年数を超すと卒業ができなくなります。大学なら大学卒という箔が付きますが、当校は卒業しただけで何にもなりません。国家試験に合格しなければ何にもなりませんので、国家試験に受かるレベルに達しないと判断した学生は退学されます。

(加藤会長) 平成29年度国家試験合格率100%ですが、受験する前に合格するレベルに達しない学生が退学し、結果的に全員合格となったということですか。

(成瀬事務長) 国家試験合格が厳しそうな学生については、先生方が懇切丁寧に指導し、力を入れて合格に導いています。中には頑張っても合格するまでに至らない学生もいます。

(加藤会長) 質問も出尽くしたようであります。
以上で、議事は全て終了しました。これで議長の任を解かしていただきます。ご協力ありがとうございました。

(成瀬事務長) 学生の募集につきましては、早速募集要項の印刷等を手配し、速やかに募集を始めます。

最後に、その他といたしまして、6月15日に平成30年度第1回東濃看護専門学校懇談会を開催いたしましたので、概要について、東濃西部広域行政事務組合水野事務局長から報告があります。

(水野局長) 懇談会概要報告

懇談会には、各市の副市長、総務部長、医師会の代表者、病院の看護部長及び市民代表で構成されており、年2回開催されます。

本日も報告させて頂いた入学生の状況、在学生の状況及び卒業生の就業状況について、同様の報告をさせていただきました。平成29年度は入学者が31名と少なかったが、今年度は37名と回復しました。入学生の中で加茂准看護学校出身者が9名と大きく増加しました。卒業生の29名が国家試験に全員合格しました。卒業生の就業状況ですが、圏域内に62.1%が就職しています。

懇談会で頂きました意見としましては、入学生の確保と圏域内での就職の定着の2点となります。入学につきましては、推薦入試について、医師

会の方からも気にかけていただいております。准看護学生を増やすため、准看護学校への入学者を増やす努力をしていると医師会から報告を頂きました。また、看護師専門学校に入学するには、准看護師の免許が必要なため、准看護学校になるべく進学してもらうように、この学校のPRをしていくということが大事であるとのことをご意見をいただきました。

圏域内への就職につきまして、就職説明会の折に、身近な先輩に来てもらい、お話しをしてもらってはどうかとの意見を頂きました。このことにつきましては、平成30年度の就職説明会で、病院から本校の卒業生を連れてきて、話をさせているとのこと、このような機会を設けることの重要性について話を頂きました。

最後になりますが、看護師を目指す学生に色々な選択肢が増えてきているので、准看護学校の数が増えるというよりも、むしろ看護大学の数の方が増えている状況でございますので、ますます厳しい状況になるだろうとの話を頂きました。

以上、簡単ではございますが、懇談会のご報告とさせていただきます。

(成瀬事務長) その他としまして、何かございましたらお願いします。

それでは、これをもちまして、平成30年度第1回東濃看護専門学校運営協議会を終了させていただきます。

今後も、当校の運営につきまして、格別なるご高配を賜りますようお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。